

新規採用・削除医薬品等通知

薬剤部 医薬品情報管理係

新規採用医薬品通知

(薬品名)	ベタニス錠 50mg	劇 市販直後調査 平成23年9月～平成24年3月
(英名)	Betanis Tablets 50mg	
(規格・含有量)	50mg/1錠 1錠中、有効成分ミラベグロン 50mg を含有	
(一般名)	ミラベグロン錠	
(メーカー名)	アステラス製薬	
【薬価収載日】	2011年9月	
【薬価】	1錠:189.80円	
【薬効コード】	87259	
【薬効分類名】	選択的 β_3 アドレナリン受容体作動性過活動膀胱治療剤	
効能・効果	過活動膀胱における尿意切迫感、頻尿及び切迫性尿失禁	
用法・用量	通常、成人にはミラベグロンとして50mgを1日1回食後に経口投与する。	
禁忌	①本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者 ②重篤な心疾患を有する患者[心拍数増加等が報告されており、症状が悪化するおそれがある。] ③妊婦及び妊娠している可能性のある婦人(「妊婦、産婦、授乳婦等への投与」の項参照) ④授乳婦[動物実験(ラット)で乳汁移行が認められている。また、授乳期に本薬を母動物に投与した場合、出生児で生存率の低値及び体重増加抑制が認められている。 ⑤重度の肝機能障害患者(Child-Pugh スコア 10以上)[血中濃度が過度に上昇するおそれがある。 ⑥フレカイニド酢酸塩あるいはプロパフェノン塩酸塩投与中の患者(「相互作用」の項参照)	
相互作用	本剤他剤副作用増強 ①カテコールアミン(アドレナリン、イソプレナリン等)、②ピモジド 本剤作用増強 イトラコナゾール、リトナビル、アタザナビル、インジナビル、ネルフィナビル、サキナビル、クラリスロマイシン、テリスロマイシン 本剤作用減弱 リファンピシン、フェニトイン、カルバマゼピン 他剤作用増強 ①CYP2D6の基質(デキストロメトルファン、フェノチアジン系抗精神病剤[ペルフェナジン]、ドネペジル等) ②三環系抗うつ剤(アミトリプチリン塩酸塩、ノルトリプチリン塩酸塩、イミプラミン塩酸塩等)③メプロロール ④ジゴキシン	
副作用	γ -GTP 上昇、便秘、CK(CPK) 上昇、AI-P 上昇など	

(薬品名)	クラビット点眼液 1.5%
(英名)	Cravit ophthalmic solution 1.5%
(規格・含有量)	5mL/1本 1mL 中、有効成分レボフロキサシン水和物 15mg を含量
(一般名)	レボフロキサシン点眼液
(メーカー名)	参天製薬
【薬価収載日】	2011年3月
【薬価】	1mL:138.10円
【薬効コード】	871319
【薬効分類名】	広範囲抗菌点眼剤
効能・効果	<適応菌種> 本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、マイクロコッカス属、モラクセラ属、コリネバクテリウム属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、インフルエンザ菌、ヘモフィルス・エジプテウス(コッホ・ウィークス菌)、シュードモナス属、緑膿菌、ステプトロモナス(ザントモナス)・マ尔特フィリア、アシネトバクター属、アクネ菌 <適応症> 眼瞼炎、涙嚢炎、麦粒腫、結膜炎、瞼板腺炎、角膜炎(角膜潰瘍を含む)、眼科周術期の無菌化療法
用法・用量	通常、1回1滴、1日3回点眼する。なお、症状により適宜増減する。
禁忌	本剤の成分、オフロキサシン及びキノロン系抗菌剤に対し過敏症の既往歴のある患者
相互作用	—
副作用	重大な副作用 ショック、アナフィラキシー様症状 その他 眼刺激感、味覚異常(苦味等)など

(薬品名)	リカルボン錠 50mg	劇 市販直後調査 平成 23 年 9 月～平成 24 年 3 月
(英名)	RECALBON	
(規格・含有量)	50mg/1錠 1錠中、有効成分ミノドロン酸水和物 50mg を含有	
(一般名)	ミノドロン酸水和物錠	
(メーカー名)	小野薬品	
【薬価収載日】	2011 年 9 月	
【薬価】	1錠:3,433.40 円	
【薬効コード】	873999	
【薬効分類名】	骨粗鬆症治療剤	
効能・効果	骨粗鬆症	
用法・用量	通常、成人にはミノドロン酸水和物として 50mg を 4 週に 1 回、起床時に十分量(約 180mL)の水(又はぬるま湯)とともに経口投与する。 なお、服用後少なくとも 30 分は横にならず、飲食(水を除く)並びに他の薬剤の経口摂取も避けること。	
禁忌	①食道狭窄又はアカラシア(食道弛緩不能症)等の食道通過を遅延させる障害のある患者 ②服用時に上体を 30 分以上起こしていることのできない患者 ③本剤の成分あるいは他のビスホスホネート系薬剤に対し過敏症の既往歴のある患者 ④低カルシウム血症の患者 ⑤妊婦又は妊娠している可能性のある婦人	
相互作用	本剤作用減弱 水以外の飲料、食物(特に牛乳や乳製品のような高カルシウム含有飲食物)、多価陽イオン(カルシウム、鉄、マグネシウム、アルミニウム等)含有製剤(ミネラル入りビタミン剤、制酸剤等)	
副作用	重大な副作用 上部消化管障害、顎骨壊死・顎骨骨髓炎、大腿骨転子下及び近位大腿骨骨幹部の非定型骨折(類薬)低カルシウム血症 肝機能障害、黄疸 その他 胃・腹部不快感、腹痛、胃炎、アルカリホスファターゼ減少など	

(薬品名)	シュアポスト錠 0.5mg	劇
(英名)	SUREPOST	
(規格・含有量)	0.5mg/1錠 1錠中、有効成分レパグリニド 0.5mg を含有	
(一般名)	レパグリニド錠	
(メーカー名)	2011 年 3 月	
【薬価収載日】	大日本住友製薬	
【薬価】	1錠:57.80 円	
【薬効コード】	873969	
【薬効分類名】	速効型インスリン分泌促進剤	
効能・効果	2 型糖尿病における食後血糖推移の改善 ただし、下記のいずれかの治療で十分な効果が得られない場合に限る。 (1)食事療法・運動療法のみ (2)食事療法・運動療法に加えて α -グルコシダーゼ阻害剤を使用	
用法・用量	通常、成人にはレパグリニドとして 1 回 0.25mg より開始し、1 日 3 回毎食直前に経口投与する。維持用量は通常 1 回 0.25～0.5mg で、必要に応じて適宜増減する。なお、1 回量を 1mg まで増量することができる。	
禁忌	①重症ケトーシス、糖尿病性昏睡又は前昏睡、1 型糖尿病の患者 ②重症感染症、手術前後、重篤な外傷のある患者 ③妊婦又は妊娠している可能性のある婦人 ④本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者	
相互作用	血糖降下作用を増強する薬剤 ①インスリン製剤 ②ビグアナイド系薬剤(メトホルミン等) ③ α -グルコシダーゼ阻害剤(アカルボース、ボグリボース、ミグリトール) ④チアゾリジン系薬剤(ピオグリタゾン) ⑤DPP-4 阻害剤(シタグリブテン等)⑥GLP-1 アナログ製剤 ⑦ β -遮断剤(プロプラノロール等) ⑧モノアミン酸化酵素阻害剤 ⑨サリチル酸製剤(アスピリン等) ⑩タンパク同化ホルモン剤(メスタノロン等) ⑪テトラサイクリン系抗生物質(テトラサイクリン ミノサイクリン等) ⑫シクロスポリン 血糖降下作用を減弱する薬剤 ①アドレナリン ②副腎皮質ホルモン(メチルプレドニゾン等) ③卵胞ホルモン(エチニルエストラジオール等) ④ニコチン酸 ⑤ピラジナミド ⑥フェノチアジン系薬剤(クロルプロマジン等) ⑦利尿剤(チアジド系 クロルタリドン エタクリン酸等) ⑧フェニトイン ⑨リファンピシン その他 ①イソニアジド ②甲状腺ホルモン(乾燥甲状腺等) ③グアネチジン	
副作用	重大な副作用 低血糖 肝機能障害 心筋梗塞 その他 めまい・ふらつき、振戦、空腹感など	

削除医薬品通知

●12月1日より

ノルデイトロピン S 注 10mg	消尽後削除
ノルディペン 10	消尽後削除
リカルボン錠 1mg	削除
クラビット点眼液 0.5%	削除
キャベジンコーワ顆粒 25%	削除

医薬品変更通知

今回採用医薬品（採用）	従来採用医薬品（削除）
ノルデイトロピン フレックスプロ注 10mg	ノルデイトロピン S 注 10mg

規格追加通知

今回採用医薬品
●12月1日より カロナール錠 200

適応追加通知

エルプラット点滴静注液 50mg 100mg	結腸癌における術後補助化学療法 他の抗悪性腫瘍剤との併用において、通常成人にはオキサリプラチン 85mg/m ² (体表面積)を1日1回静脈内に2時間で点滴投与し、少なくとも13日間休薬、又は130mg/m ² (体表面積)を1日1回静脈内に2時間で点滴投与し、少なくとも20日間休薬する。これを1サイクルとして投与を繰り返す。なお、患者の状態により適宜減量する。
ハーセプチン注射用 60 150	HER2 過剰発現が確認された乳癌 HER2 過剰発現が確認された転移性乳癌には A 法又は B 法を使用する。HER2 過剰発現が確認された乳癌における術後補助化学療法には B 法を使用する。HER2 過剰発現が確認された乳癌における術前補助化学療法には A 法又は B 法を使用する。HER2 過剰発現が確認された治癒切除不能な進行・再発の胃癌には他の抗悪性腫瘍剤との併用で B 法を使用する。 A 法 通常、成人に対して1日1回、トラスツズマブとして初回投与時には4mg/kg(体重)を、2回目以降は2mg/kgを90分以上かけて1週間間隔で点滴静注する。 B 法 通常、成人に対して1日1回、トラスツズマブとして初回投与時には8mg/kg(体重)を、2回目以降は6mg/kgを90分以上かけて3週間間隔で点滴静注する。 なお、初回投与の忍容性が良好であれば、2回目以降の投与時間は30分間まで短縮できる。
ジフルカン Cap 100mg	造血幹細胞移植患者における深在性真菌症の予防 成人には、フルコナゾールとして400mgを1日1回経口投与する。 (小児・新生児用量追加) <小児> カンジダ症 通常、小児にはフルコナゾールとして3mg/kgを1日1回経口投与する。 クリプトコッカス症 通常、小児にはフルコナゾールとして3~6mg/kgを1日1回経口投与する。なお、重症又は難治性真菌感染症の場合には、1日量として12mg/kgまで増量できる。 造血幹細胞移植患者における深在性真菌症の予防 小児には、フルコナゾールとして12mg/kgを1日1回経口投与する。なお、患者の状態に応じて適宜減量する。ただし、1日量として400mgを超えないこと。 <新生児> 生後14日までの新生児には、フルコナゾールとして小児と同じ用量を72時間毎に投与する。 生後15日以降の新生児には、フルコナゾールとして小児と同じ用量を48時間毎に投与する。
イレッサ錠 250	EGFR 遺伝子変異陽性の手術不能又は再発非小細胞肺癌
モディオダール錠 100mg	下記疾患に伴う日中の過度の眠気 ・持続陽圧呼吸 (CPAP) 療法等による気道閉塞に対する治療を実施中の閉塞性睡眠時無呼吸症候群